



「じじちゅらぼ」
〜こころのラボレーション〜

スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

想像する力・イメージする力

例えば、「目の前で滑って転んだ人を見たらどうしますか？」

この質問に対してみなさんだったら、どう答えますか？おそらく瞬時に頭の中で「滑って転んだ人」のイメージをして、社会的に良し悪しは別として様々な答えがあがってくるでしょう。「面倒だからイメージしない」場合を除いて、このイメージの中には「自分」がいて、「目の前」の出来事として「転んだ人」が出てくるはず。そして、そのイメージの中の出来事に対しての感想や次にとる自分の行動が、答えとなってでてくる、という脳の働きとそれに伴った言葉の答えがあるのです。

向のある発達障がいの子どもにあてはまる、というわけではありませんが、自閉傾向の特徴のひとつとして「イメージすること・想像することが苦手」、つまり「例え話」や「比喩」が苦手ということがあります。前出の質問のような場合には（笑顔で）「えっ？僕見たことないからわからないよ」「前におじいちゃんか転んで、私大丈夫？」って助けてあげたの」といったように、**実体験に基づいた答えが多い**のです。実体験でなくても、誰かがこの状況で対処している「場面」に出会ったことのある子どもは、その時のことを思い出して答えることもあり。このように**苦手な特徴があっても、実際に「見たり」、絵や映像を見ながら「教えてもらったり」体験を積むことで、苦手を克服しようとする力をもっている子どももたくさんいます。**

しかし「イメージすること・想像することが苦手」なために、日常生活のやりとりやコミュニケーションの中で、つまづきが重なってしまつていきます。たとえ親しみを込めた言い方としても「そんなこともわからねえだか」「どんな年代のどんな口調でどんな表情か、想像つきますか？」と言われれば、子どもは「その一言」で傷ついてしまうこともあるのです。

発達障がいは見た目でわかる障がいではありません。そのため子どもをとりまく環境においては小さな気づきと理解が大切なのです。そして一概に発達障がいと言っても、すべての子どもに個性があるように、同じように発達障がいの子どもにも個性があります。基本としての障がいの特徴を理解して、一人ひとりと向き合っていけるようになるといいですね。



青少年問題協議会主催「食育講演会」
教育・食育アドバイザー 大塚 貢さん講演会
『食で変えませんか、健康な心と体に』

～子どもはかしこく、大人は元気に～

とき 3月7日(木) 9時45分～12時
ところ 中央公民館 2階 大講堂

荒れていた中学が授業改善、給食改革
花壇づくりで優秀校に！

※参加者全員に大塚先生の取り組みが書かれた小冊子「ごはんがこども達を変えた!」をプレゼント!



講師プロフィール

昭和11年長野県生まれ。信州大学卒業後、中学校教員を経て都内で会社員生活を送る。その後、長野に戻り、県教育委員会指導主事、中学校教頭、校長を経て平成9年、旧真田町教育長就任。18年より上田市教育委員長。19年退任後、現在は教育・食育アドバイザーとして活躍中

大塚貢先生の信念

「悪い子なんていない。問題を起こすその子の環境が悪いのだ。それを改善してあげたらその子は必ずやさしくなる」

【問い合わせ】 生涯学習係 ☎45-8695